

公立大学法人宮城大学の
業務の実績に関する評価結果
(平成23年度)

平成24年9月

公立大学法人宮城大学評価委員会

- 目 次 -

評価の考え方	1
項目別評価	1
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	
イ 学士課程	2
ロ 大学院課程	2
(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置	
イ 入学者受入方針・入学者選抜	
(イ) 学士課程	2
(ロ) 大学院課程	2
ロ 教育課程	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	3
ハ 教育方法	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	4
ニ 成績評価	
(イ) 学士課程	4
(ロ) 大学院課程	4
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 適正な教員配置	4
ロ 教育及び教員の質の向上	4
ハ 教育環境の整備	5
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	
イ 学習支援	5
ロ 生活支援	5
ハ 就職支援	5
ニ 経済的支援	5
ホ 社会人・留学生への支援	6
2 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の方向性	6
ロ 研究水準の向上	6
ハ 研究成果の地域社会への還元	6
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の実施体制	6
ロ 研究費の配分	7
ハ 研究者の配置	7
ニ 研究環境の整備	7
ホ 研究活動の評価	7
ヘ 知的財産の創出	7

第2	地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	地域貢献に関する目標を達成するための措置	
	(1) 県民の高等教育機関としての役割	8
	(2) 地域社会への貢献	8
	(3) 産学官の連携	8
	(4) 大学間の連携	8
2	国際交流等に関する目標を達成するための措置	8
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	運営体制の改善に関する目標を達成するための措置	
	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築	9
	(2) 戦略的な予算等の配分	9
	(3) 学外の有識者等の登用	9
2	教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	9
3	人事の適正化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 人事制度	9
	(2) 評価制度	10
4	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 事務組織の見直し	10
	(2) 事務の効率化	10
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	(1) 外部資金の獲得	10
	(2) 自己収入の確保	10
	(3) 授業料等の適切な設定	11
2	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	11
3	資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	11
第5	教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置	11
2	情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置	11
第6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
1	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	12
2	安全管理等に関する目標を達成するための措置	12
3	人権の尊重に関する目標を達成するための措置	12
	全体評価	12

公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果（平成23年度）

評価の考え方

公立大学法人宮城大学評価委員会は、公立大学法人宮城大学（以下「法人」という。）の平成23年度業務の実績について、法人が提出した業務実績報告書、法人からのヒアリング等に基づき「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

「項目別評価」は、法人の自己評価（～）の妥当性について調査・分析し、項目ごとに「S～D」の5段階で評定するとともに、法人の業務運営において評価すべき点や改善すべき点が明らかになるよう評定に当たっての意見等を示すこととした。

「全体評価」は、項目別評価の結果を踏まえた上で、教育研究の質の向上や教育研究成果の社会への還元に結びついたと認められる取組とともに、課題とする点や法人に対する要望等を総括的に示した。

項目別評価

《評定の状況》

（単位：件）

項目	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 年度計画を順調 に実施している	B 年度計画をおお むね順調に実施 している	C 年度計画の実施 にやや遅れがあ る	D 年度計画の実施 が遅れており、 重大な改善事項 がある	計
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 教育に関する目標を達成するための措置						
	2	16				18
2 研究に関する目標を達成するための措置						
		9				9
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置						
	2	2	1			5
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
		8				8
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
		5				5
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置						
		2				2
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置						
		3				3
全体	4	45	1			50

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目 1～12）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教育に関する一定の成果が認められる。
- ・ 食産業学部3年生は産業実習で全員がインターンシップに参加しており、その報告会で優秀であったグループが大学祭時に高校生や一般向けにポスター発表しているが、大変好ましい。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目 13～20）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学院カリキュラムの充実に向けて、順調に進展しているものと判断する。
- ・ 食産業学研究科博士課程新設については、平成24年度の申請に向け、万全の体制による取組を願いたい。

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 入学者受入方針・入学者選抜

(イ) 学士課程（法人自己評価項目 21～27）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ アドミッションポリシーの周知に向けた取組を積極的に行っていることは評価できる。
- ・ 入学者の意見を参考にする機能の充実を図りたい。
- ・ 教育に関する目標に謳われているように、教育の活性化のためにも、県外及び全国からの入学者の確保に努める必要がある。
- ・ 入試が社会のニーズを踏まえた適切なものとなっているか確認することが必要と書いているが、実際問題として、それが何を意味するのか明らかとなっていない。社会のニーズがどのように評価され対応されるかのさらなる検討が有用となる。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目 28～31）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学院独自のパンフレットを作成し、広く広報に努めていることは評価できる。

ロ 教育課程

(イ) 学士課程（法人自己評価項目 32～59）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 3学部とも、英語、韓国語、中国語などの語学教育に力を入れていることは望ましい。
- ・ 国際インターンシップを開始、若しくは開発しており、今後の発展に期待したい。
- ・ 国際インターンシップの充実など、他大学との差別化を期待したい。
- ・ 教育において多くの特筆すべき点が見られるが、高等教育では教員の「teaching」から学生の（その過程で教員の手助けを伴った）「learning」へ移行させることが重要。学生の自律した学習機会にもっと多く焦点を当てる必要があると考える。
- ・ 保険師や看護師の国家試験に対する指導を行い、高い合格率を誇っていることは評価できる。
- ・ 学都仙台コンソーシアムにおける単位互換ネットワークについては、その役割、教育効果などについて検証し、より魅力的な仕組みの構築に向けた工夫をする必要がある。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目 60～72）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 在学期間短縮に向けた制度変更などは、社会ニーズに応えており評価できる。
- ・ サテライトキャンパスの夜間講義に多くの受講生を得ていることは評価できる。

ハ 教育方法

(イ) 学士課程（法人自己評価項目 73～101）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 共通教育で様々な工夫や取組を行っていることは評価できる。
- ・ 英語講義の内容と海外研修プログラムの内容との連携を図り、海外研修者を増加させる取組は評価できる。
- ・ 3学部とも地域連携の授業科目を開発していることは評価できる。また、インターンシップを取り入れていることは、人材養成の観点から好ましい。
- ・ 「Research-led teaching（研究成果による啓発的な教育）」は重要だが、教員が自身の現在の研究について教えることだけでなく、自身の研究過程や研究への熱意を学生が理解することも重要と考える。
- ・ 学部によって取組にバラツキがあるのが気になる。

(D) 大学院課程（法人自己評価項目 102～115）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教育費を活用して学生の研究発表の機会を多く作っていることは評価できる。
- ・ 食産業学研究科において、積極的に県や企業の研究所と共同して学生を教育していることは評価できる。
- ・ 学部によって取組にバラツキがあるのが気になる。

二 成績評価

(I) 学士課程（法人自己評価項目 116～117）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 成績分布をチェックしていることは評価できる。
- ・ 成績に対して学生から反論等の機会を与えていることは評価できる。

(D) 大学院課程（法人自己評価項目 118～119）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 成績分布をチェックしていることは評価できる。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 適正な教員配置（法人自己評価項目 120～127）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員選考を原則公募制とし、模擬授業を課していることは評価できる。
- ・ 学生へのヒアリングも検討すべきと考える。

ロ 教育及び教員の質の向上（法人自己評価項目 128～135）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ベストティーチャ 賞を設けて授業紹介を行っていることは、ユニークな取り組みであり評価できる。
- ・ 学生の授業評価についてはすでに多くの経験が蓄積されているので、その活用方法（公表の仕方、教員へのフィードバックの方法など）・役割・効果などについて再検討すべき時期にあると思われる。

八 教育環境の整備（法人自己評価項目 136～143）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「 年度計画を予定どおり実施している」であり，なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから，当委員会としては，特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 図書の充実や，e-learning，ネットワークの整備に目標以上の進展を得たことは高く評価できる。
- ・ 蔵書数や館内利用者数のより一層の進捗を期待する。
- ・ 仙台市中心部でのサテライト機能があるとより充実すると思われる。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学習支援（法人自己評価項目 144～154）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 学生に対しきめ細かな支援を行っていることは評価できる。

ロ 生活支援（法人自己評価項目 155～159）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 震災後の支援は特に必要であり，ストレス反応調査を行い，ケア等を施していることは評価できる。

八 就職支援（法人自己評価項目 160～173）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ きめ細かい就職支援により，高い就職内定率を得ていることは評価できる。
- ・ 今後は就職先の満足度評価や私立大学等との比較も必要と考える。
- ・ 事業構想学研究科（大学院）において，入学時に個々の学生の能力・適正・資格等に対応した進路指導を行っているが，入学時からのフォローは大切なことと感じた。

二 経済的支援（法人自己評価項目 174）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」であり，なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから，当委員会としては，特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 被災学生に対し、速やかに支援したことは好ましい対応であった。

ホ 社会人・留学生への支援（法人自己評価項目 175～177）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 留学生に対し、日本文化を理解させようとする努力は評価できる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

イ 研究の方向性（法人自己評価項目 178～182）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 震災により、計画通りいかなかったのはやむを得ない。一方で復興関連の研究を進めたのは好ましい。
- ・ 研究者によって方向性は変わるものだと思う。
- ・ 件数も重要だが、戦略性も必要と考える。

ロ 研究水準の向上（法人自己評価項目 183～186）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 紀要の役割もあろうと思うが、廃止したことは一つの決断だと理解する。
- ・ 「宮城大学紀要」の廃止は査読（ピア・レビュー）されたジャーナル紙への投稿の増加に働くので、前向きな進展と考えられます。

ハ 研究成果の地域社会への還元（法人自己評価項目 187～192）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 地域連携の促進や、研究成果の社会還元を推進していることは評価できる。
- ・ 成果を発表する場、機会が多いとはいえないので更なる増加を期待したい。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 研究の実施体制（法人自己評価項目 193～196）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

ロ 研究費の配分（法人自己評価項目 197～201）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 科研費などの外部資金確保に向けて努力していることは評価できる。

ハ 研究者の配置（法人自己評価項目 202～203）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員人事において、書面審査のみでなく、研究成果に係るプレゼンテーションを課していることは評価できる。

ニ 研究環境の整備（法人自己評価項目 204～209）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 研究時間の確保に向けた試みを始めたことは評価できる。また、整った研究環境の維持を期待する。

ホ 研究活動の評価（法人自己評価項目 210）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学の全体的な研究プロフィールの改善は明確化されているが、これとプロモーション（又は他の報酬）との関係が十分に明らかになっていないと思われる。

ヘ 知的財産の創出（法人自己評価項目 211～214）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 県民の高等教育機関としての役割（法人自己評価項目 215～222）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 県民の高等教育機関としての役割をある程度果たしていると考える。
- ・ 学生確保に向けた努力が見られる。また 地域に根差した授業科目があることは好ましい。
- ・ 県との優れた、相互に有益な関係が見られるが、生涯学習の機会をもっと作ることができたと思う。

(2) 地域社会への貢献（法人自己評価項目 223～227）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 緊急雇用創出事業により、栗原市、大崎市の地域活性化に貢献したことは評価できる。

(3) 産学官の連携（法人自己評価項目 228～237）

【評定】B 年度計画をおおむね順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%以上であり、当委員会としては、年度計画をおおむね順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 震災と言う特別な状況の中でも、多くの受託研究を締結したことなどは評価できるが、より積極的な連携を期待したい。

(4) 大学間の連携（法人自己評価項目 238）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 計画通り進展していると判断する。

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 239～254）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 国際交流の推進，海外大学との連携に向けて多大な努力がはらわれていると判断する。成果も着々と上がっており，特筆すべき進捗状況と認められるが，国際的な経験を獲得する学生や教員の割合を高めるため，更なる進捗を期待したい。
- ・ グローバル化が進展する中で，宮城県の国際化は相対的に遅れているように思われる。食産業学部及び事業構想学部の教育・研究は地域との結びつきが強い一方，地域の枠を超えた国際的な展開の可能性をもつ分野でもあるので，教育・研究の成果を外部に積極的に発信する必要がある。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長を中心とする運営体制の構築（法人自己評価項目 255～262）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 事務職員全員が参加するSD（スタッフ・ディベロップメント）を行っていることは評価できる。

(2) 戦略的な予算等の配分（法人自己評価項目 263）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

(3) 学外の有識者等の登用（法人自己評価項目 264～265）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 学外の有識者の登用は，順調に進展していると判断する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 266～267）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度（法人自己評価項目 268～276）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ プロパー職員が順調に増加していることは評価できる。
- ・ 人事については、業績に応じた明確かつ公平な処遇が条件となる。
- ・ ティニユア・トラック制を廃止し、新たな任期制を導入したこと自体は歓迎されることだが、業績の優れた教員を保持するための方策を検討する必要がある。

(2) 評価制度（法人自己評価項目 277～280）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 評価基準、評価方法が明確かつ公正であることが大切である。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 事務組織の見直し（法人自己評価項目 281～282）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 組織の見直しは永遠の課題であるので、環境変化に応じて常に改善していくことを期待する。

(2) 事務の効率化（法人自己評価項目 283～286）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 業務の効率化やペーパーレス化に向けた努力は評価できる。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとすべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 外部資金の獲得（法人自己評価項目 287～291）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 外部資金獲得における教員一人あたり110万円の目標は適切と思える。
- ・ 公立大学法人としての資金調達には限界があると思うが、科研費獲得のための研修を行っていることは評価できる。また、獲得目標も達成している。

(2) 自己収入の確保（法人自己評価項目 292～295）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

(3) 授業料等の適切な設定（法人自己評価項目 296～299）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 県内入学者と県外入学者との入学金の差が大きすぎるのではないか。一定の差を設けることはやむを得ないと考えるが、この差が県外からの入学者を排除する方向に作用している面があるのではないか。
- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 300～303）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 15%の電力削減目標を達成したことは評価できる。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 304～305）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 306～309）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 震災の影響もあったが、年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 310～317）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 広報委員会を立ち上げ、専門の職員を配置したことは評価できる。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 318～321）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 施設有効活用検討委員会を立ち上げ、恒常的に検討していることは評価できる。
- ・ 教授・学生の立場で視点が変わると思う。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 322～325）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目 326～328）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

全体評価

平成23年度は、未曾有の被害を出した東日本大震災直後の非常に厳しい状況からのスタートであり、法人にとっても、学内環境の早期復旧を図るとともに、「県民の大学」として教育・研究・ボランティア等の側面で県内の復興支援活動を行い、なおかつ年度計画の着実な推進を図るといった難しい舵取りを求められた年度であった。その中で法人が行った取組や実績について、次のとおり評価する。

教育に関しては、研究力とともに教育力の高い教員の採用や入試説明会の大幅な増加、県内外の高校訪問の強化、高校生対象のアカデミックインターンシップなど、教育の質の向上や優秀な学生の確保に対する積極的な取組が見られた。また、入学金や授業料の減免措置など被災学生に対する経済的支援を速やかに実施したことや、長期間の就職活動をせずに希望する就職が可能となるよう、様々なアプローチで学生の就職支援体制を構築し、99.2%という近年最高の就職率を実現したことは高く評価できるものである。食産業学研究科博士後期課程の新設についても、平成25年度の設置に向けた着実な進捗が認められることから、総じて、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

研究に関しては、学内研究費の一部を組み替え、震災復興特別研究費として学内公募により15件の研究課題を採択し、震災復興への貢献を図ったことや、地域連携協定を締結していた南三陸町の震災復興計画策定に全学を挙げて支援したことは、地域社会の課題やニーズに対応した取組として大いに評価できる。また、宮城大学紀要の廃止については、査読（ピア・レビュー）された国際ジャーナルや論文誌等への投稿増加へ向けた前向きな進展と考えられるため、今後の掲載数増加を期待する。全体としては、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

地域貢献等に関しては、地域連携センターを中心に文部科学省の補助金などの外部資金を活用して、地域に直接貢献できる研究活動や雇用創出が行われたことや、入学者に占める県内出身者が65.5%、県内就職率が47.6%と震災前のレベルを維持したことは高く評価できる。また、国際交流や海外大学との連携については、長期留学生の派遣やグローバルインターンシップの推進など多大な努力がはらわれていると認められ、成果も着々と上がっていることから、特筆すべき進捗状況と認められる。今後も国際的な経験を獲得する学生や教員の割合を高めるため、更なる進捗を期待する。以上、震災の影響により、当初予定していた県内自治体との連携計画が見直されるという側面もあったが、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

業務運営の改善等に関しては、人事管理の適正化を進めるに当たり、教員採用時に外部者の意見を取り入れていることや、プロパー職員の積極的な採用などが評価できる。また、職員の資質向上のために全員参加のSD（スタッフ・ディベロップメント）などを実施しており、今後も理事長を中心とした運営体制のもと、教員及び事務職員の質や意欲の向上に資するさらなる取組に期待する。全体としては、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

財務内容の改善に関しては、外部資金獲得において、インセンティブ措置や科学研究費補助金獲得のための研修会実施などの工夫により、科学研究費補助金の獲得者率が前年度の23.6%から31.5%に上昇し、外部資金獲得額が1億4,800万円と目標額を達成するなどの大きな進捗が見られた。また、震災に伴う夏季の電力使用制限措置に対応した節電対策を実施し15%の削減目標を達成したほか、効率的な予算配分及び執行により、人件費、物件費、管理費等の経費削減の努力も認められることから、総じて、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

自己点検・評価、情報提供に関しては、規程集、予算、組織、研究費情報及び各種議事録を公開しているほか、教員人事について選考過程と選考結果を学内公表するなど、積極的な情報公開を行っている。また、広報活動を担う全学広報委員会を立ち上げ、広報担当職員を配置するなど、広報活動の体制強化への取組については、今後の成果を期待する。全体的には、内外に対して透明性の高い運営を行っており、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

その他業務運営に関しては、施設有効活用検討委員会を設置し、就学環境の改善を図るための検討を進めていることなどが評価できる。また、人権侵害防止についても継続した取組が見られることから、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

法人による自己評価結果については、法人自己評価327項目中326項目が「年度計画を大幅に上回って実施している」又は「年度計画を予定どおり実施している」とされている（評定不能により評価を行わなかった1項目を除く。）。

法人化3年目となる平成23年度は、東日本大震災の影響のなか、理事長及び理事会を軸とした運営体制のもと、自主的・自律的で効果的・効率的な運営に向けて、年度計画が着実に進捗されたと認められる。

当委員会としては、項目別評価の結果を踏まえ、平成23年度について、全体として年度計画を順調に実施しているものと評価する。

東日本大震災からの復興元年と位置づけられる平成24年度以降においても、教育研究の質を高め、創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し、その成果を広く社会に還元することにより、地域の産業及び社会の発展に寄与するため、中期目標の実現に向けて教職員が一丸となって取り組み、復興に向けての大きな力になることを期待するものである。